

出 来 形 管 理

平成22年(2010年) 9月 改正
平成22年(2010年) 12月 一部改正
平成24年(2012年) 6月 一部改正
平成25年(2013年) 3月 一部改正
平成26年(2014年) 3月 一部改正

長野県 林務部

区分	工種	項目		規格値 単位明示がないのは(mm)	
7 護岸工・擁壁工・土留工(かご、ふとん籠工、鉄線枠工)、補強土擁壁	鉄線かご かご擁壁 簡易鋼製 土留擁壁 ふとん籠 鉄線枠	基準高(▽) (高さ管理を必要とする構造物の場合)		±100以内	
		布設寸法	延長(ℓ)	-1%以内	
			高さ(h)	-50n以内 n:段数	
		各個の寸法	長さ(ℓo)	-50以内	
			幅(b)	-50以内	
			高さ(h)又は 径(D)	-50以内	
		補強土擁壁	基準高(▽)		<u>±100以内</u>
			リフト毎の高さ(h)		-100以内
			延長(1)	ℓ<10m	-50以内
	ℓ≥10m			-0.5% 最大-100以内	
	控え長さ		設計値以上		
	のり勾配(m.n)		±0.3分以内 (安定計算を満たすこと)		
	部材数量		設計量以上		

区分	工種	項目		規格値 単位明示がないのは(mm)	
7 護岸工・擁壁工・土留工(かご、ふとん籠工、鉄線枠工)、補強土擁壁	鉄線かご かご擁壁 簡易鋼製 土留擁壁 ふとん籠 鉄線枠	基準高(▽) (高さ管理を必要とする構造物の場合)		±100以内	
		布設寸法	延長(ℓ)	-1%以内	
			高さ(h)	-5n以内 n:段数	
		各個の寸法	長さ(ℓo)	-50以内	
			幅(b)	-50以内	
			高さ(h)又は 径(D)	-50以内	
		補強土擁壁	基準高(▽)		
			リフト毎の高さ(h)		-100以内
			延長(1)	ℓ<10m	-50以内
	ℓ≥10m			-0.5% 最大-100以内	
	控え長さ		設計値以上		
	のり勾配(m.n)		±0.3分以内 (安定計算を満たすこと)		
	部材数量		設計量以上		

区分	工種	項目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準		
20 落石 予防 工	ロープ伏工	施工中確認	土被り厚 (掘削機の残長等で確認) (土砂部用アンカーに適用)	CCM協会の表土厚規定 値内		
			削孔長 (岩部用アンカーに適用)	定着長以上 (CCM協会の規定値以上)	施工本数の 5% 又は最小本数 3本	
			アンカー打込角度 (岩部・土砂部アンカー共に適用)	平均斜面勾配に対して 90° を基本とし、上向き 15度、下向き40度以内		
			アンカー残尺長 ・根入長(定着長)	設計定着長を満たしている 残尺長(CCM協会の規定値以上)	アンカー打込角度の確認と合 わせて実施。 施工本数の5% 又は最小本数3本	
		施工後確認	主ロープ間隔	管理基準軸	2.0±0.2(m) 以内 かつ、管理基準軸の延長が下 表の値を満たすこと	管理基準軸ごと測定する。 例)管理基準軸の延長が8mの場合  管理基準軸ごとは2.0±0.2m以内 かつ 管理基準軸の延長は8.0±0.5mを満たすこと
				管理基準軸以外	2.0+0.5(m)以内	500㎡当たり 1 格子 (2m×2m)
			使用した場合	金網重ね合わせ幅	+100以上	施工箇所 1 箇所以上測定する。
				金網 縦・横 延長	-500以上	変化点毎に測定する。
			ロープ掛工	現場毎、監督員と協議のうえ基準等を定めること。		

区分	工種	項目	規格値 単位明示がないのは(mm)	測定基準		
20 落石 予防 工	ロープネット工 (ロープ掛工)	施工中確認	土被り厚 (掘削機の残長等で確認) (土砂部用アンカーに適用)	CCM協会の表土厚規定 値内	1工区当たり 5% 又は最小本数 3本以上	
			削孔長 (岩部用アンカーに適用)	定着長以上 (CCM協会の規定値以上)	1工区当たり 5% 又は最小本数 3本以上	
			アンカー打込角度 (岩部・土砂部アンカー共に適用)	平均斜面勾配に対して 90° を基本とし、上向き 15度、下向き40度以内	1工区当たり 5% 又は最小本数 3本以上	
			アンカー残尺長 ・根入長(定着長)	設計定着長を満たしている 残尺長(CCM協会の規定値以上)	アンカー打込角度に合わせて 確認。1工区当たり 5% 又は 最小本数3本以上	
		施工後確認	施工管理基準	縦横主ロープ間隔	管理基準軸 2.0±0.2(m)を基本とし、 スパン長が長くなる場合は、 監督員と協議の上定める。 管理基準軸外 2.0+0.5(m)以内	縦横主ロープを、1施工箇所当 たり最低縦 2 本横 1 本を測定す る。
				出来形管理基準	縦横主ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内
				縦横補助ロープ間隔	2.0+0.5(m)以内	主ロープの間隔に準じて、均等に割り付け られているか確認
			使用した場合	金網重ね合わせ幅	100以上	施工箇所 1 箇所以上測定する。
				金網 縦・横 延長	-500以上	変化点毎に測定する。

区分	工種	記録方法	測定箇所等
20 落石 予防 工	ロープ伏工	検査記録票 出来形図	<p>1 工事内で複数工区に分かれていれば、工区別に適用する。</p> <p>出来形が、しゅん工時に確認できない場合は、監督員による段階確認による他、監督員の指示により、CCM協会の写真管理基準等を参考にして出来形を記録する。</p> <p>(アンカー耐力(確認)試験は、品質管理基準に掲載)</p> <div data-bbox="560 534 940 837" data-label="Diagram"> <p>図 1-1-1. アンカーの打込角度</p> <p>打込角度: $\alpha = 5.0^\circ \sim 1.05^\circ$</p> <p>アンカー 打込範囲: $\beta = 5.5^\circ$</p> </div> <p>(参考 アンカーの打込角度について)</p> <p><u>本内容により難しい場合は、監督員と協議のうえ基準等を定めること。</u></p>
	ロープ掛工		

区分	工種	記録方法	測定箇所等
20 落石 予防 工	ロープネット工 (ロープ掛工)	検査記録票 出来形図	<p>一工事内で複数工区に分かれていれば、工区別に適用する。</p> <p>出来形が、しゅん工時に確認できない場合は、監督員による段階確認による他、監督員の指示により、CCM協会の写真管理基準等を参考にして出来形を記録する。</p> <p>(アンカー耐力(確認)試験は、品質管理基準に掲載)</p>